

平成 29 年 11 月 26 日（日）施行

第 188 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 主要材料費のため、直接材料費
2. 工場消耗品費のため、間接材料費
3. 測定経費のため、間接経費
4. 製造（調理）作業に従事していないので、間接労務費
5. 製造（調理）作業に従事しているため、直接労務費

第 2 問

1. 材料購入を掛けで行った。
2. 材料消費額を仕掛品勘定に振り替える。
3. 賃金消費額を仕掛品勘定に振り替える。
4. 製造間接費を仕掛品勘定に振り替える。
5. 製品が完成したため、仕掛品を製品に振り替える。
6. 売り上げと同時に、製品原価を売上原価に振り替える。

第 3 問

月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は先入先出法。したがって計算表は下記ようになる。

先入先出法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数 量	直接材料費	換算量	加工費	合 計
当月投入	2,800	994,000	2,900	1,325,300	2,319,300
月末仕掛品	300	①106,500	150	②68,550	175,050
差引	2,500	887,500	2,750	1,256,750	2,144,250
月初仕掛品	500	175,000	250	113,750	288,750
完成品	3,000	1,062,500	3,000	1,370,500	2,433,000

$$\textcircled{1} \quad 94,000 \times 300 \text{ 個} \div 2,800 \text{ 個} = 106,500$$

$$\textcircled{2} \quad 1,325,300 \times 150 \text{ 個} \div 2,900 \text{ 個} = 68,550$$

第4問

- ① 間接材料 363,200 消費している。
- ② 直接工の直接作業時間分の賃金 3,482,000 消費している。
- ③ 製造間接費 3,038,800 を仕掛品に配賦。
- ④ 仕掛品 8,100,300 が完成し、製品に振り替える。
- ⑤ 原価 9,222,470 の製品を販売している。

第5問

原価計算表の作成

#718

直接労務費 = 184,000 直接労務費の合計 1,610,000 ÷ 直接作業時間合計 700 時間 = 賃率 2,300
賃率 2,300 × 80 時間 = 184,000

製造間接費 = 239,200 製造間接費合計 2,093,000 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。
2,093,000 × 80 時間 ÷ 700 時間 = 239,200

#719

直接材料費 = 578,000 材料元帳払出欄より 10/6 に在庫している。

直接労務費 = 1,150,000 賃率 2,300 × 500 時間 = 1,150,000

製造間接費 = 1,495,000 製造間接費合計 2,093,000 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。
2,093,000 × 500 時間 ÷ 700 時間 = 1,495,000

#720

直接材料費 = 424,500 材料元帳払出欄より 10/27 に在庫している。

直接労務費 = 276,000 賃率 2,300 × 120 時間 = 276,000

製造間接費 = 358,800 製造間接費合計 2,093,000 を配賦基準（直接作業時間）用いて、配賦する。
2,093,000 × 120 時間 ÷ 700 時間 = 358,800